

SDGs へ貢献するための廃材を活用した子どもの外遊び

～神戸市立森林植物園園・ちびっこ広場における実践より～

神戸女子大学 家政学部 家政学科 梶木研究室

箕浦 衣美香

1. 研究の背景と目的

SDGs は 17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、気候変動や格差などの広範な課題に取り組む普遍的なものである。神戸市は、「神戸 2025 ビジョン」や「神戸市大規模公園ビジョン」を策定し、SDGs に取り組んでいる。子どもにとって外遊びは、身体的・社会的・知的・精神的・情緒的な側面を育む重要な要素であり、子ども時代に外遊びをすることは重要であると言える。本研究では、多目的広場の特徴である広い芝生空間でワークショップを行い、森林植物園から出る廃材をワークショップで活用する。そして子どもが外遊びをすることでの、SDGs17 の目標のうち抽出した 5 項目（表 1）への貢献を目的とする。また、SDGs を取り入れた理想の公園のあり方について明らかにする。

表 1. 対象 5 項目への目標



2. 研究方法

神戸市立森林植物園・ちびっこ広場において 3 日間の遊びワークショップを実施した（表 2,3）。森林植物園の廃材を活用した遊びを用意した。10 月 22 日はコスモスイベント、10 月 29 日はハロウィンイベントを取り入れた。そして、参加した子どもの保護者と学生スタッフにアンケートを実施し、子どもが外遊びをすることでの SDGs への貢献や SDGs を取り入れた理想の公園のあり方について明らかにした（表 4）。

表 2. ワークショップ概要

実施日 (2023)	10月8日	10月22日	10月30日
天気	雨	晴れ	晴れ・風
時間	10:30~12:30	12:30~15:00	
遊び内容	丸太渡り 丸太切り体験 丸太にお絵描き	モルック コスモスイベント ハロウィンイベント	輪投げ
子ども	5人	59人	34人
学生スタッフ数	13人	16人	14人

表3. ワークショップ内容

丸太渡り	丸太切り体験	丸太にお絵描き	モルック
			
輪投げ	コスモス	ハロウィン	
			

表4. アンケート調査概要

調査対象	参加した保護者	参加した学生スタッフ
場所	森林植物園・ちびっこ広場	
日程 (2023) (アンケート枚数) (人数)	10/8 (2枚)、10/22 (34枚) 10/29 (21枚)	10/8 (13人)、10/22 (16人) 10/29 (14人)
調査時間	12:30~15:00	ワークショップ終了後~翌日
調査方法	ワークショップ参加前に受付にて アンケートを配布、帰りに回収	ワークショップ終了後に Webアンケートを配信・回収

3. アンケート調査結果と考察

3-1. 保護者アンケート調査の結果

[丸太遊びを通じての発見や気づき]

発見や気づきがあったという回答が62%であった(図1)。「丸太だけで、多くの遊びができることを知った。」との回答が見られ、保護者は1つの廃材から多くの遊びができることに気づいた。子ども目線では「木を切るのは大変だと知った」「木を切ると木くずが出ることを知った」などの回答が見られた。これらの結果から廃材を使った外遊びは、子どもが森林や木材について学ぶ機会を得られることが分かった。

[子どもの森林や植物に対する興味や関心]

興味や関心が高まったという回答は81%(図2)で、ほとんどの保護者が、子どもが森林や植物に対する興味や関心が高まったと回答した。丸太遊びをすることで、子どもは森林や植物に対して興味や関心を持つようになり、自然への愛着が深まることが示唆された。

[公園での活動内容への望み]

最も多かった回答はクラフト活動で、見つけた植物や使用した押し花やフォトフレーム、おもちゃの制作を望む声が多かった。次いで、四季に合わせた季節のイベントの開催を望む回答も多く、今回のワークショップのような季節のイベントは高評価である。これらの活動を行うことは公園に人を集めるきっかけとなり、賑わいをもたらす効果があると考えられる。

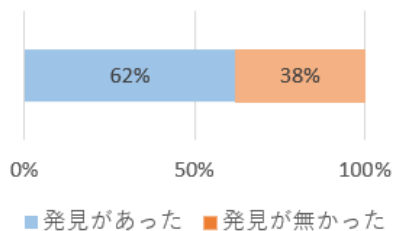


図 1. 丸太遊びでの発見や気づき

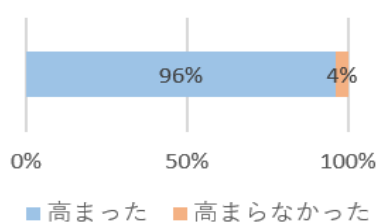


図 2. 森林や植物への興味や関心

3-2. 学生アンケート調査の結果

学生スタッフの、ワークショップでの子どもの様子についての回答は表7のとおりである。

[子どもの様子について]

遊びながら自然と木に触れていることが明らかになった。子どもは遊びに参加しながら丸太の重さや硬さ、樹皮について様々な発見をしていた。

表 7. 丸太遊びでの子どもの様子

	子どもの様子		子どもの様子
丸太渡り	最初は家族と遊び、徐々に周りの子ども同士で遊んでいた。	輪投げ	簡単なルールであるため、年齢関係なく遊んでいた。未就学児は、輪を直接的に入れることを楽しんでいた。
丸太切り体験	切るのは大変そうだが、切った後の達成感が大きい様子だった。	コスモス	ブーケをもって嬉しそうに親の元へ渡しに行く姿が多く見られた。「つぼみだから切ったらだめ」など自分で判断していた。
丸太にお絵描き	絵具を混ぜて変化を見る子どもの様子が見られた。	ハロウィン	子どもは意欲的だった。じゃんけんで勝つと喜び、負けると悔しがる様子が見られた。
モルック	自分であと何点かを計算して、数字を狙って遊んでいた。		

4. 森林植物園との協働

ワークショップ開催に向けて打ち合わせを行った。ワークショップ内容や準備物、ポスター、実施場所の確認を行った。森林植物園の廃材を見学し、樹種を選択した。広報活動は、園内の掲示や案内放送、HPでの拡散、周辺の住宅へのチラシポスティングの協力を得た。そして開催時期には、廃材や道具などの準備物を保管するために、園内の倉庫の提供を受けた。

5. 本研究の結果のまとめ

本研究では過去3年間の研究結果をもとに神戸市立森林植物園・ちびっこ広場で「廃材を活用した外遊びワークショップ」を実施した。ワークショップを実施することで子どもの外遊びを通じて、SDGs17の目標のうち5項目に貢献することを目的とした。森林や植物に対して興味を持ち、新しい発見をしていることを明らかにするため、参加者の保護者と学生スタッフにアンケート調査を行った。

アンケート調査の結果から、SDGs17の目標のうち対象とする5項目についての貢献を以下項目別に分けて記述する。

① 質の高い教育をみんなに (No.4)

廃材を使った複数の遊びを無償で行い、来園者のすべてが森林や植物についての新たな発見や、興味、関心を高めることができた。

② 住み続けられるまちづくりを (No.11)

保護者は、気軽に訪れることのできる公園が身近にあることや子どもたちと一緒に自然に囲まれて遊ぶことの素晴らしさを感じた様子であった。公園の魅力を向上させ人々を呼び寄せることで、公園のリピーターを増やし、まちを活性化させ賑わいをもたらすことができた。

③ つくる責任つかう責任 (No.12)

多数の保護者は、丸太の廃材だけで色々な遊びができると気づいた。廃棄物をあらゆる遊具に活用することができた。

④ 陸の豊かさも守ろう (No.15)

子どもは遊びながら自然と木に触れ、興味や関心を高めていた。これらの発見や関心の高まりは、今後の公園の環境保全や育成につながる。

⑤ パートナーシップで目標を達成しよう (No.17)

神戸市立森林植物園と神戸女子大学梶木研究室が協働し、ワークショップを開催することで、本ワークショップに参加するために公園を訪れる親子が増加した。森林植物園の良さを広めることで、今後もより多くの人を呼び込む効果がある。

5. SDGs を取り入れたワークショップ

本研究結果のより神戸市立森林植物園・ちびっこ広場でのワークショップにおいて、廃材を活用した遊びワークショップのあり方について提案を行う。

[空間]

木が多い公園で、森林や植物に囲まれた遊び空間を用意することで大人に強制されることがなく子ども自身が木や植物について学ぶことができる。公園運営者とワークショップ実施者が協働で実施できる関係性も重要である。

[内容]

木の廃材を利用して作った遊具を用意する。丸太渡りは樹種別に並べ、学べる工夫を行う。廃材で作成した平均台や、シーソーの設置など遊びの種類を増やす。未就学児が自分のペースで遊べるように、小学生とは別の遊びブースを設ける。子どもの森林や植物への興味や関心を高めるために、季節に合わせたイベントを行い、公園に人を集める。

[運営]

ワークショップは大学と公園が協働して行い、事前に打ち合わせをする。開催前は早めに広報活動を行う。オリジナルポスターを公園内に掲示、HP、SNS で拡散、周辺へのポスティングを行う。当日は園内放送や来園者にチラシを配ることで当日参加を促す。いずれも公園の協働が求められる。また、ワークショップの準備や後片付けの効率を高めるために、学生に担当を与える。アンケートで両手が塞がるのを防ぐため、Google フォームを活用する。ワークショップ開催中の強風についても対策する必要がある。

[謝辞]

本研究は、多くのかたのご協力により無事に終えることができました。ワークショップに参加し、アンケートにご回答くださった方々にも感謝いたします。研究にご協力いただいた神戸市立森林植物の金森園長、本位田副園長、稲葉様、並びに職員の皆様、ご助力いただきありがとうございました。

なお、公益財団法人神戸市公園緑化協会の「神戸市の緑の普及・啓発に寄与する調査・研究支援」による助成により実施しました。心より御礼申し上げます。

また、ご多忙のなかワークショップの準備から論文作成にあたり、多くの指導をくださった梶木典子先生、本当にありがとうございました。梶木ゼミの皆様にはワークショップの準備や当日のサポートにご協力いただきありがとうございました。

本研究を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。